

ぼくじょう なかま はなし
牧場の 仲間たちの お話

アヒルの ^こ子と ヒヨコたち





アヒルも にわとりも、^{なつ} 夏の ^{あいだ} 間に
めすが ^{たまご} 卵を ^{あたた} 温めたがるのは めずらしい
ことでは ありません。

ある^{なつ} 夏、^わ 1羽の めんどりが ^{たまご} 卵を
^{あたた} 温めたがっていたので、わたしの ^{はは} 母は、
にわとりと アヒルの ^{たまご} 卵を ^{りょうほう} 両方
めんどりに ^{さいしょ} だかせました。最初は
アヒルの ^{たまご} 卵を めんどりの ^{した} 下に ^お 置き、
その ^{しゅうかんご} 1週間後に、にわとりの ^{たまご} 卵も
^お 置きました。これは、にわとりの ^{たまご} 卵が
かえるのに ^{いち} 21日 ^{たい} かかるのに ^{たい} 対し、
アヒルの ^{たまご} 卵が ^{いちかん} かえるのには 28日間
かかるためです。

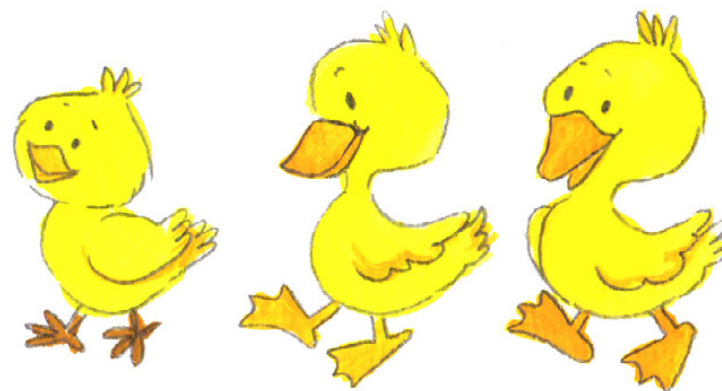
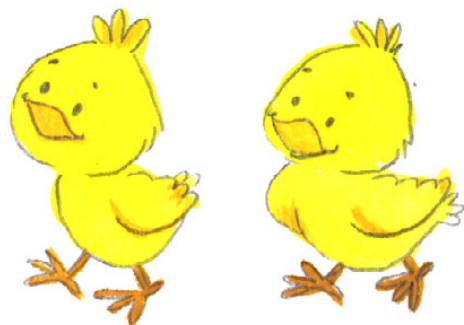


アヒルは 卵を 温めている 時、イサを 食べたり 水を 飲んだり するために、
1日に 少なくとも 2回ほどは 巣から はなれます。巣に もどる 前に、
アヒルは 水の中 に入ります。そうすると、巣に もどった 時に、ぬれた
胸が 巣の中 の 卵を ほどよい 湿気の中 で 暖かく 保てるからです。



めんどりも、イサを 食べたり 水を 飲んだり
するために、1日に 何回かは 巣を はなれますが、
水の中 には 入りません。巣に もどる 時、羽は
かわいています。つまり、アヒルの 卵を めんどりに
だかせる 時は、何かを しないと、そのままでは
かえらない ということです。それで、朝と 夜の
1日 2回、アヒルの 卵を めんどりの 下から
取り出して、室温と 同じ ぬるい 水に すばやく
卵を くらせ、そして めんどりの 下に もどすという
仕事を、わたしが
していました。





28日目になって、わたしたちはその日に何が起おこるのが、ワクワクして見ていました。まもなく、小ちいさなヒヨコとアヒルのヒナが、卵たまごを割わって出てきました。2日ふたつもたたない内うちに、めんどりは、2羽ふたのアヒルの子こと3羽さんのヒヨコを世せ話わするようになっていました。

アヒルが水みずの中なかで泳およぐのが大だい好きすきなのを知しっているわたしたち子供こどもたちは、アヒルの子こが卵たまごからガエすって数すう日にちたつたころ、水みずの入はいったたらいを置おきました。するとアヒルの子こは水みずの中なかに入はいって、おおはしゃぎしました。いつでも好すきな時ときにたらいに入はいったり出でたりしやすいように、たらいのふちまでレンガをいくつか積つみ上あげて、階かい段だんを作つくりました。水みずの中なかからも飛とび出でしやすいように、たらいの中なかにもレンガを一ひとつ置おきました。





アヒルの子は階段を駆け上がって、水の中へ飛びこみます。
 アヒルの子が、それは楽しそうにしているのを見て、ヒヨコたちも、
 水の中に入ることにしました。レンガの階段を駆け登って、
 ヒヨコたちも、水の中へ飛びこみました。けれども、もちろん、
 あわれなヒヨコたちは泳げません。すぐにしずんでしまうので、
 わたしたちが水の中から助け出してあげなければなりません。



「各自は、主からたまわった分に應じ、
 また神に召されたままの状態にしたがって、
 歩むべきである。」(口語訳聖書、コリント人への
 第一の手紙 7:17)

このことがあってから、わたしたちは
 たらいのそばにレンガを置くのは
 やめました。結局アヒルの子には、浅い
 入れ物を用意しました。あやまって
 ヒヨコたちが入ってもおほれないくらい
 浅いものです。ヒヨコたちも、二度と
 泳いでみようとはしませんでした。アヒルの
 子たちが水の中で遊んでいる時は、
 周りの芝生で走り回って満足するようにな
 ったのです。

